

國學院大學学術情報リポジトリ

スタッフ紹介

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000533

スタッフ紹介

※ 氏名、現職、専門分野、担当研究事業、および2017年度の研究業績について紹介します。今年度新任のスタッフに関しては、研究紹介および2016年度以前の研究についても掲載します。

平藤喜久子 所長・教授 神話学、宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[単行本]

- ・(著書)『日本の神様 解剖図鑑』エクスナレッジ、2017年12月。
- ・(監修)『祭りさんぽ』(上大岡トメ著) 幻冬舎、2017年5月。
- ・(監修)『見るだけですっかりわかる神さま』三交社、2017年11月。
- ・(監修)『福を呼ぶ! ニッポン神社めぐり (趣味どきっ!)』NHK出版、2017年12月。
- ・(監修)『日本の神さま御利益事典』神宮館、2018年3月。

[論文]

- ・「アニミズム」月本昭男編『宗教の誕生 宗教の起源・古代の宗教』山川出版社、2017年8月、33-48頁。
- ・「しあわせの神話学—英雄が運ぶしあわせ」櫻井義秀編『しあわせの宗教学』法蔵館、2018年1月、45-74頁。
- ・“Foreign Research on Japanese Myth in the Early Shōwa Period: Different Perspectives during the “Fascist Era”,” in Michael Wachutka, Monika Schrimpf, Birgit Staemmler eds., Religion, Politik und Ideologie, Beiträge zu einer kritischen Kulturwissenschaft, Iudicium Verlag, 2018.1, pp.322-337.
- ・「“史”から“話”へ—日本神話学の夜明け」植朗子・南郷晃子・清川祥恵『「神話」を近現代に問う』勉誠出版、2018年3月、43-56頁。

[口頭発表]

- ・“Myth and History: Artists' Encounter with Mythology in Wartime Japan,” International Association for Comparative Mythology 11th Annual International Conference, 2017.6.8., University of Edinburgh.
- ・Session Convener “Religious Research and Religious Education in Contemporary Asia-Pacific Regions”, ISSR 34th Conference, 2017.7.5., University of Lausanne.
- ・Session Convener “Shinto Culture in the Age of Globalization: Challenges to Conveying Concepts”, EAJIS2017, 2017.9.1., Faculdade de Ciências Sociais e Humanas (Lisbon, Portugal).
- ・「歴史と神話の間で—安田頼彦の神話絵画—」(パネル「聖と古代のファシズム」) 日本宗教学会第76回学術大会、於東京大学、2017年9月16日。
- ・“The beginning of comparative study between Japanese myth and Korean myth: in the case of Mishina Shōei”, International Workshop “Perceptions of the Cultural Other Japanese Images of Korea – Korean Images of Japan, 2018.2.16., Tübingen University.
- ・(講演)「現代からアニミズムを考える」於北海道大学、2017年5月19日。
- ・(講演)「神話学からみた八幡信仰の神話」東京都八幡会研究会、於明治記念館、2017年7月10日。
- ・(講演)「ひむか女子旅の魅力! 神話でめぐる旅」宮崎県民大学、於宮崎県立図書館、2017年9月9日。
- ・(講演)「神話で巡る旅—神様に出会う—」足利学校、於小野照崎神社、2017年9月23日。
- ・(講演)「比較神話学からみた日本神話」古代オリエン特博物館ナイト講座、於サンシャイン文化会館、2017年10月13日。

[その他]

- ・(テレビ出演)「趣味どきっ! 福を呼ぶ! ニッポン神社めぐり」NHKEテレ、2018年1月8日~2月26日

(全8回)。

藤澤紫 教授 日本美術史、日本近世史、比較芸術学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

〔単行本〕

- ・(監修・執筆)『遊べる浮世絵 くもんの子ども浮世絵コレクション』青幻舎、2018年1月。
- ・(監修・執筆)『別冊太陽253 鈴木春信 決定版』(別冊太陽 日本のこころ 253)、平凡社、2017年8月。

〔論文〕

- ・「浮世絵に描かれた母と子—絵師たちの文明開化—」『明治維新から150年 浮世絵にみる子どもたちの文明開化』町田市立国際版画美術館、2017年10月
- ・「烏居清広筆 梅樹下の男女 (見立玄宗皇帝楊貴妃)」『國華』第1465号 第123編 第4冊、朝日新聞出版、2017年11月。

〔口頭発表〕

- ・「浮世絵に描かれた母と子」明治維新から150年・浮世絵にみる子どもたちの文明開化展記念講演会、於町田市立国際版画美術館、2017年11月11日。
- ・(連続講座)「歌川列伝! 美人画の百花繚乱」中山道広重美術館、2017年7月8日。
- ・体感! 浮世絵摺り実演・体験会&夕涼み浮世絵講座、於國學院大學学術メディアセンター、2017年7月29日。
- ・「日本美術の百花繚乱—浮世絵に描かれた文字と花々—」平成29年度伝統文化に学ぶ講座(東京)、於國學院大學学術メディアセンター、2017年7月30日。
- ・「浮世絵と名所絵—神奈川ゆかりの景を楽しむ—」横浜市青葉区公開講演会、於横浜市青葉区役所、2017年10月14日。
- ・「浮世絵と江戸文化」國學院大學院友会東京都二十三区支部講演会、於國學院大學渋谷キャンパス、2017年11月25日。

〔その他〕

- ・(監修)「遊べる浮世絵 くもんの子ども浮世絵コレクション」展、広島県立美術館、会期:2018年1月5日~2月12日。
- ・「目利きのイチオシ コレクション 浮世絵:上 太田記念美術館」『朝日新聞』、2017年4月18日。
- ・「目利きのイチオシ コレクション 浮世絵:下 太田記念美術館」『朝日新聞』、2017年4月25日
- ・「浮世絵美人百年史(1)~(4)」『日本経済新聞』、2018年2月14日~28日。
- ・(テレビ出演・監修)「NHKドキュメンタリー 江戸のリアルウーマン—歌麿が描いた女たちの物語—」NHK BSプレミアム、2017年10月4日。
- ・(テレビ出演)「日曜美術館 錦絵誕生! ~浮世絵師 鈴木春信~」NHK Eテレ、2017年10月1日(再放送10月8日)。

ノルマン・ヘイヴンズ (HAVENS, Norman) 教授 日本宗教史、日本の民間信仰

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

黒崎浩行 教授 宗教学、情報化と宗教、現代社会と神社神道

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

〔論文〕

- ・「自然災害からの復興における宗教文化の位相—生業の持続・変化の観点から—」『宗教と社会貢献』7巻1号、2017年4月、1-17頁 [http://hdl.handle.net/11094/60615]。
- ・「被災地の祭り・祈りを支援する学生ボランティアと宗教学者」高倉浩樹・山口睦編『震災後の地域文

化と被災者の民俗誌—フィールド災害人文学の構築』新泉社、2018年1月、197-211頁。

- ・「福島県浜通り沿岸地域の復興と神社」『神道宗教』第249号、2018年1月、53-69頁。

[その他]

- ・(項目執筆)「第15章 被災者への支援で求められるものは何か?—「心のケア」、臨床宗教師、霊性—」大谷栄一・川又俊則・猪瀬優理編『基礎ゼミ 宗教学』世界思想社、2017年4月、131-138頁。

松本久史 教授 近世・近代の国学・神道史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

[口頭発表]

- ・「近世国学の展望—古典と民俗の再発見—」国際シンポジウム「民俗学／民族学のエクリチュール」、於日仏会館、2017年4月21日。
- ・「近世人霊奉斎研究史の課題」日本宗教学会第76回学術大会、於東京大学本郷キャンパス、2017年9月16日。
- ・「明治維新と国学者—京都—力亭主人杉浦治郎右衛門を例に—」明治聖徳記念学会第64回例会、於明治神宮、2018年3月24日。

[その他]

- ・(発題)「近世における人霊祭祀の展開(3)(第三十四回神社本庁神道教学研究大会報告 人霊祭祀の歴史的展開)」『神社本庁総合研究所紀要』22号、2017年6月、269-292頁。
- ・(書評とリプライ)「國學院大學研究開発推進センター編 阪本是丸責任編集『昭和前期の神道と社会』『宗教と社会』23号、2017年6月、131-137頁。

遠藤潤 教授 宗教学、日本宗教史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

[口頭発表]

- ・「平田国学と門人たち—江戸と地方—」国際シンポジウム「民俗学／民族学のエクリチュール」、於日仏会館、2017年4月22日。
- ・「柳田国男「神道私見」再考—初出時の文脈を読み直す—」宗教史懇話会サマーセミナー、於かんぱの宿いわき、2017年8月28日。

星野靖二 准教授 近代日本宗教史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[論文]

- ・「「新仏教」のゆくえ——中西牛郎を焦点として—」『大谷大学真宗総合研究所研究紀要』35号、2018年3月、47-68頁。

[口頭発表]

- ・「九州における仏教演説—和敬会を中心に—」日本近代仏教史研究会第25回大会、於東北大学、2017年6月3日。
- ・"Buddhist Apologetics around 1880: Wakeikai and Buddhist Speech (Bukkyo enzetsu 仏教演説)" in the panel "Defending the Dharma in Nineteenth-Century Japan" organized by Janine Tasca Sawada, at the 15th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EASJS), held at Faculdade de Ciências Sociais e Humanas (Lisbon, Portugal), 2017.8.31
- ・「明治一〇年代の仏教演説における教化の諸相」(パネル「仏教における〈教化〉の諸相—近世から近代へ—」代表者: 岩田真美) 日本宗教学会第76回学術大会、於東京大学、2017年9月16日
- ・"Making Tenrikyō into a Religion: the Reconfiguration of a Japanese New Religion in 1900" in the

panel "The Role of Religious Studies in The Development of a Japanese New Religion: Case Studies of Tenrikyo" organized by Adam Lyons, at the 2017 annual conference of the Society for the Scientific Study of Religion (SSSR), held at Marriott Wardman Park Hotel (Washington D.C., USA), 2017.10.15

【その他】

- ・(書評)「中西直樹・吉永進一著『仏教国際ネットワークの源流——海外宣教会(1888年～1893年)の光と影』」『宗教研究』91巻1輯(通巻388号)、2017年6月、136-142頁。

齋藤公太 助教 日本思想史・宗教史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」、「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【論文】

- ・「『国家神道』と教育勅語—その狭間にあるもの—」岩波書店編集部編『徹底検証 教育勅語と日本社会—いま、歴史から考える—』岩波書店、2017年11月、33-49頁。
- ・「大山為起と荷田春満—『古事記』注釈の比較・続考—」『朱』61号、2018年2月、102-121頁。

【口頭発表】

- ・「垂加派の『日本書紀』解釈の方法について」『日本書紀1300年史を問う・仮』第1回研究会、於佛教大学、2018年3月31日。

吉永博彰 助教 中世・近世の神道史、神社有職故実

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

【その他】

- ・「神社参拝マナーQ&A」「おみくじ・お守り—知っていればますます開運—」月刊『大法輪』2017年5月号、大法輪閣、2017年5月、87-91、118-119頁。

加藤久子 客員研究員 宗教社会学、歴史社会学、宗教文化論

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

【論文】

- ・「現代史における宗教研究の可能性と課題——ポーランド史の視点から」『東欧史研究』40号、2018年3月、165-170頁。

【口頭発表】

- ・「ポーランドのカトリック巡礼地が表象するdarkness」研究会「社会主義文化における記憶と記念の比較研究」、於北海道大学、2017年7月29日。
- ・「負の文化遺産と＜パフォーマンス＞ポーランドにおけるホロコーストの記憶をめぐる—」日本社会学会90回大会、於東京大学、2017年11月4日。

【その他】

- ・(翻訳) 齊偉先著「戦後台湾における宗教の『近代化』とその課題」國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所『2016年度国際研究フォーラム「東アジアのグローバル化と宗教文化」報告書』2018年2月、33-39頁。

チャールズ・フレーレ (FREIRE, Carl) 客員研究員

近代の日本史(特に社会史・思想史)

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

今井信治 PD研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

【単行本】

- ・『オタク文化と宗教の臨界—情報・消費・場所をめぐる宗教社会学的研究—』見洋書房、2018年3月。

村上晶 PD研究員 宗教社会学、シャーマニズム研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

【単行本】

- ・『巫者のいる日常—津軽のカミサマから都心のスピリチュアルセラピストまで—』春風社、2017年7月。

【論文】

- ・「巫者の語りと実践の形成—津軽のカミサマを事例として—」『宗教研究』91巻1輯（通巻388号）、2017年6月、71-95頁。

【口頭発表】

- ・「山を去った巫者と仏教寺院—津軽のカミサマの事例から」第181回駒沢宗教学研究会、於駒澤大学、2017年7月14日。
- ・“A Changing Picture of the Japanese Shamanistic Practice of Kuchiyose”, 34th Conference of International Society for the Sociology of Religion, University of Lausanne, 2017.7.4.

【その他】

- ・（コラム）「多くの風景と人の思いを積み重ね」『週刊読書人』第3209号、2017年10月6日。

丹羽宣子 PD研究員 宗教社会学・ジェンダー論

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【口頭発表】

- ・「現代日本仏教への家族社会学的接近に向けて」DFS研究会、於東京工業大学、2017年6月24日。
- ・「〈僧侶らしさ〉をめぐる交渉実践—日蓮宗女性僧侶の生活史から—」日本宗教学会第76回学術大会、於東京大学、2017年9月17日。

小高絢子 研究補助員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

【研究紹介】

社会の変化にともなう現代の寺院の変容を、観光との関わりの中かで考察している。その際には宗教学、社会学、観光学や地理学といった諸分野の理論を参照しながら、主に資料の分析や現地調査の知見をもとに研究を進めている。これまでの研究では、東京都葛飾区の日蓮宗寺院、経栄山題経寺（柴又帝釈天）を対象として、聖地が観光と関わっていくなかで場所のイメージがどのように変化したか、について注目してきた。現在は、寺院や参道の商店街の人々、行政、観光客といった、対象地に関わる人々を個別に取り上げ、宗教や観光と関わるなかで見られる思惑や行動を通して、当該地における信仰と観光とのバランス、ありようを捉えようと試みている。

【論文】

- ・「宗教空間における信仰と観光—柴又帝釈天および柴又地域を事例として—」『宗教学・比較思想学論集』（筑波大学宗教学・比較思想学研究会）19号、2018年3月、13-36頁。
- ・「宗教的場所の体験と変容—柴又帝釈天とその周辺を事例として—」筑波大学、2018年3月、修士論文。

【口頭発表】

- ・「柴又帝釈天における意味づけの変容と場所の体験」第183回駒沢宗教学研究会・関東地区修士論文発表会、於駒澤大学、2018年3月29日。

[2016年度までの主な研究業績]

- ・「現代社会における寺院と観光化―柴又帝釈天を事例として―」『宗教学・比較思想学論集』（筑波大学宗教学・比較思想学研究会）18号、2017年3月、59-76頁。

高田彩 研究補助員 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[研究紹介]

これまで、神仏分離以降の山岳聖地が、交通網の発達などの外部要因や、神社組織の変化などの内部要因の影響を受けて、どのように変容しているのかを検討してきた。その際、聖地が所有する宗教資源を活用するにあたり、どのような生存戦略を立てて、なにを存続させ、なにを変革していくのか取捨選択しつつ、自らの手で聖地を編集してきたのかという点を、観光という事象に注目することで明らかにした。そして、現在は、聖地に関わる人々の意識と具体的な活動のあり方が、一山組織にどのような影響を与えているのか、ジェンダーや宿坊運営という視点から、武州御岳山をフィールドとして調査研究を行っている。

[論文]

- ・「伝統保持と観光化からみる山岳聖地の真正性について―武州御岳山を事例に―」『大正大学大学院研究論集』41号、2017年3月、129-152頁。

[口頭発表]

- ・「交通網の発達にみる聖地の変化―武州御岳山を中心に―」大正大学宗教学会2017年度春期大会、於大正大学、2017年6月17日。
- ・「神仏分離令への対応と観光化―修験系集団を事例として―」日本宗教学会第76回学術大会、於東京大学、2017年9月17日。
- ・「交通網の発達と御師の生活の変化」講研究会公開シンポジウム、於駒沢大学、2017年12月16日。

間芝志保 研究補助員 宗教社会学、日本宗教史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

[論文]

- ・「現代都市社会の無縁墓―札幌市を事例として―」冠婚葬祭総合研究所編『論文集―葬祭編―』冠婚葬祭総合研究所、2017年5月、86-90頁。
- ・「昭和初期・東京における墓相の展開―「正しい墓」のプロモーション―」『哲学・思想論叢』36号、2018年3月、1-17頁。

[口頭発表]

- ・「明治の墓癪家と名墓保存運動」第8回国家神道・国体論研究会「近代日本の環境形成と宗教・ナショナリズム」、於國學院大學、2017年6月27日。
- ・「ケア提供者の宗教観とケア観」（パネル「多死社会における仏教者の社会的責任」）日本宗教学会第76回学術大会、於東京大学、2017年9月17日。
- ・「近代都市札幌の墓制」シンポジウム「上方で考える葬儀と墓―近現代を中心に―」、於浄土宗應典院、2017年11月12日。
- ・"The Grave System in Japan", in Conference: Transforming Funeral Memorial Cultures Comparison between Japan and Malaysia, Heritage Armenian Hotel, March 10th, 2018.

[その他]

- ・（学術大会発表要旨）「ケア提供者の宗教観とケア観」『宗教研究』91巻4輯（通巻391号）、2018年3月、92-93頁。
- ・（コラム）「明治期札幌の無縁死者」『歴博』206号、2018年3月、11頁。

原田雄斗 研究補助員 日本近代史、日本思想史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【研究紹介】

近代日本において神道がいかに解釈されたのかを、日本近代史の文脈に即して明らかにすることを目指している。具体的には、明治時代に生まれ、日露戦争前後に神職に就任した河野省三の神道解釈を分析することで、世紀転換期では、神道解釈の根拠が時代状況から個人の境遇に変化していったことを示した。

最近では、河野が所属していた埼玉県神職会の動きを追いつつ、大正4（1915）年に行われた大正天皇の即位礼（大典）を契機とする神社界の反応を事例に、社会の「応答」としての神道の様相に迫っている。

以上の点を明らかにすることで、人々は自らの生きる社会や自らの境遇をどのように認識し、どのように意味づけようとしたのかという問いに接続することを試みている。

【口頭発表】

- ・「天皇の代替わりの展開とその応答—大正天皇の大典と神社界の議論を手がかりにして—」「宗教と社会」学会第25回学術大会、於大阪国際大学、2017年6月3日。
- ・「大正天皇大典と地域神職会—埼玉県神職会での活動を中心に—」日本宗教学会第76回学術大会、於東京大学、2017年9月16日。

【2016年度までの主な研究業績】

- ・「世紀転換期における神道解釈の展開—神道私見論争を手がかりに—」日本宗教学会第74回学術大会、於創価大学、2015年9月5日。
- ・「世紀転換期における在地神職の神道解釈と宗教観—河野省三を事例に—」『次世代人文社会研究』12号、2016年3月、109-132頁。
- ・「研究動向 国家神道研究」寺田喜朗・塚田穂高・川又俊則・小島伸之編著『近現代日本の宗教変動—実証的宗教社会学の視座から—』ハーベスト社、2016年6月、382-397頁。
- ・「大正天皇即位礼と埼玉県の神社界」第5回国家神道・国体論研究会、於國學院大學、2016年9月24日。

天田顕徳 共同研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

【論文】

- ・「修験道にまつわる情報の流行と消費」『中央学術研究所紀要』46号、2017年、47-60頁。
- ・「山への想いの宗教学—山岳信仰とロッククライミング—」頸城野郷土資料学術研究部『研究紀要』2巻7号、2017年11月、1-18頁。
- ・「現代における大峯奥駈修行の変化—地縁・血縁から修行縁へ—」『山岳修験』61号、2018年3月、71-91頁。

【口頭発表】

- ・「地域おこしと山岳信仰—相州大山を事例に—」日本山岳修験学会第38回山北・丹沢学術大会、於山北町生涯学習センター、2017年10月7日。
- ・「現代熊野における曼荼羅絵説き—コストとモチベーションを手掛かりに—」日本民俗学会第69回年会、於佛教大学、2017年10月15日。

イヴ・カドー (CADOT, Yves) 共同研究員 日本文化と武道

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

鈴木聡子 共同研究員 日本神道史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[論文]

- ・「神社年中行事研究の現状とその意義について」『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』10号、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所、2017年9月、58-76頁。
- ・「国家節会から神社年中行事へー五月五日行事を事例としてー」『神道宗教』246号、神道宗教学会、2017年4月、45-74頁。

野口 生也 共同研究員 宗教人類学、ペンテコスタリズム研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[口頭発表]

- ・「ペンテコスタリズムと断絶性」日本宗教学会第76回学術大会、於東京大学、2017年9月17日。

牧野 元紀 共同研究員 東洋学・ベトナム キリスト教社会史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

李 和 珍 共同研究員

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

ヤニス・ガイタニデイス (GAITANIDIS, Ioannis) 共同研究員

医療人類学、宗教社会学、日本学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

塚田 穂高 共同研究員 宗教社会学、日本文化論

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

ジャン＝ミシェル・ビュテル (BUTEL, Jean-Michel) 共同研究員

日本民俗学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

矢崎 早枝子 共同研究員 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[学会・シンポジウム発表]

- ・“Has the West changed the Eastern traditions?: Jewish Sufi Sam and his transcultural approach”, Sufism and Zen in the modern Western world: Spiritual marriage of East and West or Western cultural hegemony?, Glasgow, 2017.12.8
- ・“Spiritual marriage of East and West or western hegemony?: the use of narratives in the writings of Idries Shah on Sufism and of D.T. Suzuki on Zen”, British Association for the Study of Religions Annual Conference, Chester, 2017.9.4
- ・“Studying Judaism through studying Islam: A.S. Yahuda and Wissenschaft des Judentums”, British Society for Middle Eastern Studies Annual Conference, Edinburgh, 2017.7.5

[その他]

- ・(シンポジウム開催) Sufism and Zen in the modern Western world: Spiritual marriage of East and West or Western cultural hegemony?, The University of Glasgow, 2017.12.8-9

一戸 渉 共同研究員 日本近世文学

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【論文】

- ・「和学」河野貴美子他編『日本「文」学史 第二冊 A New History of Japanese “Literature” Vol.2 「文」と人びと—継承と断絶—』勉誠出版、2017年6月、272-283頁。
- ・「大師流と入木道書—架蔵岡本保考宛妙法院宮真仁法親王書状小考—」、『斯道文庫論集』52輯、2018年2月、35-64頁。

【その他】

- ・（書評）「高松亮太『秋成論攷—学問・文芸・交流—』」『国語と国文学』95巻3号、2018年3月、71-75頁。
- ・（項目執筆）「伝黒田長興筆極小栞型本『伊勢物語』」、「松平定信筆塗籠本豆本『伊勢物語』」、「『勢語臆断』」、「『伊勢物語古意』（本居春庭書入本）」、「『伊勢物語傍注』（賀茂季鷹書入本）」、「『伊勢物語傍注』（賀茂季鷹他説移写本）」、「『勢語図抄』」、「『伊勢物語新釈』（自筆稿本）」、「『伊勢物語新釈』」『伊勢物語のかがやき—鉄心斎文庫の世界—』大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国文学研究資料館、2017年10月。

【口頭発表】

- ・「近世好古図譜研究の諸前提」、共同研究「『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究」第1回研究会、於国立歴史民俗博物館、2017年7月23日。
- ・「近世の学芸と文学」総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻特別講義、於国文学研究資料館、2017年10月7日。

小平 美香 共同研究員 日本思想史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【研究紹介】

古代の神祇祭祀における女性の働きは何かという問いが研究の出発点であり、前近代の神まつりに関わる巫女と称される女性たちを、神職の歴史のなかに位置付けて検討してきた。

近年は宗教と教育の問題について関心が広がっている。現代における同問題もさることながら、宗教と教育が未分化であった明治期、福羽美静、井上頼国ら国学者たちの女子教育や女性教導職たちの国民教化の実態と近代女子教育へのつながりについて考えたい。目下、女性への教導、あるいは女性教導職の拠点となるべく設立された神道・仏教それぞれの「女教院」の解明を目指し、史料収集と検討を進めている。

【主要業績】

- ・「神社・神道をめぐる女性たちの諸相—祭祀儀礼と国民教化を中心に—」『立教大学ジェンダーフォーラム年報』18号、2017年。
- ・『昭憲皇太后からたどる近代』ベリかん社、2014年。
- ・『女性神職の近代—神祇儀礼・行政における祭祀者の研究—』ベリかん社、2009年。

【口頭発表】

- ・「神道における女性観の形成—日本思想史の問題として—」日本思想史学会創立50周年記念シンポジウム、於東京大学、2017年10月29日。

【その他】

- ・（テレビ出演）NHKドキュメンタリー 時空超越ドラマ&ドキュメント「美子伝説」BSプレミアム、2018年1月2日、（再放送2018年2月11日）。

古畑 侑亮 共同研究員 日本近世史・思想史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【研究紹介】

アカデミズム史学や郷土史が確立する以前の地域における歴史のあり方を考えるため、19世紀において

「好古家」と呼ばれた人々の蒐集活動と歴史意識について研究している。具体的には、日々の見聞や研究の成果を書き留めた随筆や書簡を手がかりとして彼らが蒐集したコレクションを分析し、活動の実態と意識・関心に迫ることを試みる。さらに、明治前期の新聞紙上の記事や投書を抽出・分析し、当該期における古いものをめぐる時代の様相、あるいは「好古家」とジャーナリズムとの関係について検討する。埼玉県ときがわ地域を主なフィールドとしつつ、長野の松代等、他地域の随筆についても調査を続けている。

[論文]

- ・「幕末・明治における新井白石著作の蒐集—埼玉の「好古家」小室元長と白石社—」『大倉山論集』64輯、2018年3月、33-72頁。

[口頭発表]

- ・「旅にみる明治初期の「好古家」の意識と交友—武蔵国の在村医小室元長の紀行文と分限帳研究—」、歴史学研究会日本近世史部会1月例会、於東京大学、2018年1月30日。
- ・「明治10年代における「好古家」の新井白石受容」日本思想文化史院生報告会、於奈良女子大学、2017年9月22日。

[2016年度までの主な研究業績]

- ・「鎌原桐山『朝陽館漫筆』の基礎的研究—松代藩家中における記録の蒐集と継承—」渡辺尚志編『藩地域の村社会と藩政 信濃国松代藩地域の研究Ⅴ』岩田書院、2017年1月、251-294頁。
- ・「明治前期における「好古家」の新聞受容—埼玉県比企郡番匠村小室元長の交友関係を中心に—」渡辺尚志編『アーカイブズの現在・未来・可能性を考える—歴史研究と歴史教育の現場から—』法政大学出版局、2016年12月、85-131頁。
- ・「幕末・明治における「好古家」の随筆受容—武蔵国の在村医小室元長の場合—」『書物・出版と社会変容』20号、2016年3月、185-222頁。

小田 真裕 共同研究員 日本近世史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

[口頭発表]

- ・(講演)「「国学者」平田篤胤と房総の村人たち」郷土資料館セミナー(鎌ヶ谷市郷土資料館)、於鎌ヶ谷市生涯学習推進センター、2018年1月11日。

[その他]

- ・「陸沢の近世史料の調べ方—寛政5年(1793)の地理札し関係史料に即して」『陸沢町史研究』9号、2018年3月、71-80頁。
- ・(調査報告)「旭市入野宮穂和已家文書」『紙魚之友』38号(房総史料調査会)、2018年3月、1-4頁。

芹口 真結子 共同研究員 近世宗教史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

[論文]

- ・「近世真宗僧侶の教化課題—「示談録」を手がかりに—」『日本史攷究』41号、2017年12月、63-85頁。
- ・「廣岡家文書と大同生命文書—大坂豪商・加島屋(廣岡家)の概容—」(廣岡家研究会共著)『三井文庫論叢』51号、2017年12月、303-394頁。

[口頭発表]

- ・「近世における東本願寺僧侶の教化活動—加賀藩領を事例に—」日本宗教学会第76回学術大会、於東京大学、2017年9月16日。
- ・「本山寺内町と真宗教団—東本願寺を事例に—」、「近世の宗教と社会」研究会東本願寺例会、於しんらん交流館、2017年12月23日。
- ・「仏教教導職の教化活動—近世期との比較を通じて—」、シンポジウム「明治期における国学と教派神道・

宗教」、於國學院大學渋谷キャンパス、2018年2月16日。

【その他】

- ・(史料紹介)「長崎県立対馬歴史民俗資料館蔵「明和八年辛卯年御掛物方御書物帳」「御書物帳」「御小納戸御書物控」翻刻」『日韓相互認識』8号、2018年2月、55-97頁。

三ツ松 誠 共同研究員 国学史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【研究紹介】

幕末維新期を中心に、国学者の営みについて、ディシプリンの枠を超えて研究することを目指している。博士論文では、靈魂論を重んじた平田国学が、いかに幕末の政治運動に対して思想的影響を与え、そして新政府においていかに思想的桎梏となったか、を明らかにするとともに、文献実証的と言われてきた本居派国学もまた、教化性を強めて新政府に貢献する役割を果たし得たことを明らかにした。佐賀に居を移した現在は、明治政府や教派神道における佐賀平田派の影響を問うとともに、当地を中心に国学系歌人の幕末維新期の活動実態を明らかにするべく努力している。ほか、井伊直弼の側近であった国学者長野義言の思想史的研究を課題としている。

【単行本】

- ・『花守と介次郎—明治を担った小城の人びと—』（編著）佐賀大学地域学歴史文化研究センター、2016年10月。

【論文】

- ・「戊辰戦争期の宗教政策—神仏分離と招魂祭—」奈倉哲三・保谷徹・箱石大編『戊辰戦争の新視点 下 軍事・民衆』吉川弘文館、2018年3月、171-190頁。
- ・「神代文字と平田国学」小澤実編『近代日本の偽史言説—歴史語りのインテレクチュアル・ヒストリー—』勉誠出版、2017年11月、60-89頁。
- ・「中島広足『佐嘉日記』と野中古水」『西日本国語国文学』4号、2017年7月、31-45頁。
- ・「『御民』宣長—林崎文庫碑文一件再考—」『雅俗』16号、2017年7月、34-43頁。
- ・「復古神道とキリスト教—肥前の事例から—」伊藤昭弘編『佐賀学Ⅲ 佐賀をめぐる「交流」の展開』海鳥社、2017年3月、233-260頁。
- ・「公論正義の敵—長野義言研究序説—」塩出浩之編『公論と交際の東アジア近代』東京大学出版会、2016年10月、79-104頁。

【口頭発表】

- ・「明治初年の丸山作楽に関する一考察」神道宗教学会第71回学術大会、於國學院大學渋谷キャンパス、2017年12月3日。
- ・「宣長神格化の諸相」日本宗教学会第76回学術大会、於東京大学本郷キャンパス、2017年9月16日。
- ・「直正と松根—政治と文事—」佐賀大学地域学歴史文化研究センター第9回地域学シンポジウム「肥前鍋島家の文雅」、於佐賀大学本庄キャンパス、2017年5月14日。
- ・(講演)「新政府と佐賀藩」佐賀大学附属図書館図書月間2017「佐賀(佐嘉)を知る!—明治維新150年に向けて—」講演会、於佐賀大学本庄キャンパス、2017年11月5日。
- ・(講演)「佐賀藩の教育と明治維新」、平成29年度日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会「明治維新150年—幕末・維新期における佐賀藩の「ひとづくり」「ものづくり」」、於佐賀大学本庄キャンパス、2017年8月24日。
- ・(講演)「柴田花守と納富介次郎」NPO法人高遊外売茶翁顕彰会佐賀おもしろ学講座、於佐賀通仙亭、2017年6月15日。
- ・(講演)「佐賀の国学者たち」楠公祭祭典後社頭講話、於楠神社、2017年5月21日。
- ・(講演)「祇園社と明治維新」小城の歴史とまちづくり交流会、於ゆめぶらっと小城、2017年5月10日。

[その他]

- ・(資料紹介) 白石良夫・中尾友香梨編、小城鍋島文庫研究会校訂『佐賀大学附属図書館小城鍋島文庫蔵 十帖源氏立圃自筆書入本【翻刻と解説】』笠間書院、2018年3月。
- ・(研究ノート)「平田国学と和歌」『国文研ニュース』50号、2018年1月、4-5頁。
- ・(翻訳) マーガレット・メール著、江下以知子・加藤悠希・小林延人・千葉功・鄭ニョン・中野弘喜・松沢裕作・三ツ松誠訳『歴史と国家——19世紀日本のナショナル・アイデンティティと学問』東京大学出版会、2017年11月。
- ・(資料紹介)「貴重書紹介「柴田介次郎上海談聞書」(小城鍋島文庫)」『ひかり野佐賀大学附属図書館報』41号、2017年10月、裏表紙。
- ・(資料紹介) 小城鍋島文庫研究会(中尾友香梨・白石良夫・三ツ松誠・土屋育子・亀井森・日高愛子・大久保順子・村上義明・二宮愛理・河野未弥)「小城鍋島文庫蔵『十帖源氏』翻刻稿(四)——梅枝巻～竹河巻」『佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要』12号、2017年6月、79-126頁。
- ・(項目執筆)「日本史」小城鍋島文庫研究会編『小城鍋島文庫蔵書解題集(試行版)』小城鍋島文庫研究会、2017年5月、7頁。

井上 順孝 客員教授 宗教学、宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[単行本]

- ・New Religions in the Age of Mass Media, (translated by Norman Havens and Carl Freire), Kokugakuin University, IJCC, 2017年。
- ・『学生宗教意識調査総合分析(1995年度～2015年度)』(編集責任)、國學院大學、2018年2月。

[論文]

- ・「宗教文化教育と意識されない価値判断—認知科学等の視点を参照して」『國學院雑誌』118巻6号、2017年6月、1-23頁。
- ・「日本文化研究所36年」(『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報』10号、2017年9月、26-39頁。
- ・「宗教文化教育とカルト問題」『宗教法』36号、宗教学学会、2017年11月、1-21頁。
- ・「現代宗教の広がりに見る二重のボーダレス化」『神道宗教』249号、神道宗教学会、2018年1月、5-32頁。
- ・「昭和前期の情報環境と祖神道信者の地理的広がり—「長洲の生神様」松下松蔵への手紙等を手がかりに一」『國學院大學大学院紀要』49号、2018年3月、25-52頁。
- ・「宗教研究は脳科学・認知科学の展開にどう向かいあうか」『宗教哲学研究』35号、宗教哲学会、2018年3月、28-46頁。
- ・「〈日本文化〉を誰に伝えるか」『國學院大學研究開発推進機構紀要』10号、2018年3月、113-127頁

[口頭発表]

- ・“The Specific and Common Aspects of Religious Culture Education”, 国際宗教社会学会議(SISR)、ローゼンヌ大学(スイス)、2017年7月5日。
- ・“What Online Dictionary EOS is aiming and future Shinto Studies from Global Perspectives”, ヨーロッパ日本研究会議(EASJ)、リスボン大学(ポルトガル)、2017年9月1日。

[その他]

- ・(書評)「藤田庄市『カルト宗教事件の深層』(春秋社、2017)」『仏教タイムス』2724号、2017年7月27日。
- ・(講演)「宗教社会学」於警察大学校、2017年6月13日、9月12日、11月16日、2018年3月12日。
- ・(講演)「<日本文化>を誰に伝えるか」第43回「日本文化を知る講座」、於國學院大學、2017年6月17日。
- ・(講演)「世界の宗教概論」於JOC国際人養成アカデミー、2017年7月16日。
- ・(講演)「神道と日本人」日本能率協会、一隅会、2017年9月20日。

- ・(テレビ出演)「ホンマでっか!?TV」フジテレビ、2017年4月1日。
- ・(シネマ特別席)「扉をたたく人」『中外日報』、2017年4月7日。
- ・(シネマ特別席)「黒水仙」『中外日報』、2017年5月12日。
- ・(シネマ特別席)「正義のゆくえ」『中外日報』、2017年6月9日。
- ・(シネマ特別席)「ソーシャルネットワーク」『中外日報』、2017年7月28日。
- ・(シネマ特別席)「神は死んだのか」『中外日報』、2017年9月1日。
- ・(シネマ特別席)「イーダ」『中外日報』、2017年10月6日。
- ・(シネマ特別席)「禅と骨」『中外日報』、2017年10月27日。
- ・(シネマ特別席)「ビルマの堅琴」『中外日報』、2017年11月24日。
- ・(シネマ特別席)「スカーフ論争〜隠れたレイシズム」『中外日報』、2018年1月12日。
- ・(シネマ特別席)「イントゥ・ザ・ウッズ」『中外日報』、2018年2月9日。
- ・(シネマ特別席)「灼熱の魂」『中外日報』、2018年3月9日。

櫻井義秀 客員教授 宗教社会学、アジア宗教文化論

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

【自己紹介】

日本の農村社会学、タイ地域研究から研究を始め、日本のカルト問題やニューカマー宗教について調査研究を進め、近年は、現代宗教をソーシャル・キャピタルやウェル・ビーイングの視座から総合的に研究することになっている。

学会活動は、日本社会学会、日本宗教学会、「宗教と社会」学会、日本タイ学会、日中社会学会で主に行っている。国際学会としては、ISA国際社会学会のRC22宗教社会学部会、ISSR国際宗教社会学会、EASSSR東アジア宗教の社会科学学会、東アジア宗教文化フォーラムで活動している。

研究会としては、宗教の社会貢献研究会、宗教の授業研究会に参加している。

自身の研究領域を示す書籍としては下記の三冊をあげておく。

- ・『東北タイの開発僧—宗教と社会貢献—』梓出版社、2008年2月。
- ・櫻井義秀・中西尋子『統一教会—日本宣教の戦略と韓日祝福—』北海道大学出版会、2010年2月。
- ・櫻井義秀『カルト問題と公共性—裁判・メディア・宗教研究はどう論じたか—』北海道大学出版会、2014年2月。

【単著・編著】

- ・『人口減少時代の宗教文化論—宗教は人を幸せにするか—』北海道大学出版会、2017年5月。
- ・『しあわせの宗教学—ウェルビーイング研究の視座から—』（編著）宝蔵館、2018年1月。

【論文】

- ・「特集 主観的ウェル・ビーイングへの社会的アプローチ 人は宗教で幸せになれるのか」『理論と方法』32巻1号、2017年7月、80-95頁。

【口頭発表】

- ・(コメンテーター)「宗教研究において「実証的研究を行う」とはいかなることか」「宗教と社会」学会大会テーマセッション、大阪国際大学、2017年6月4-5日。
- ・「現代アジアのキリスト教の趨勢に関する一考察—日本・韓国・中国・モンゴル・タイの調査から」北海道社会学会於北海道情報大学、2017年6月10日。
- ・Yoshihide Sakurai, 2017, 'How Can We Recognize Religio-Political Movements in Public Sphere? : Two Unique Religio-Political Movements and Their Social Impacts in Japan,' International Society for Sociology of Religion, Rosanne University, Swiss, July 3-6
- ・「趣旨説明 現代日本における政教関係の概況」日韓宗教研究ワークショップ2017、於北海道大学、2017年8月8日。

- ・「趣旨説明 政教関係の国際比較と新しい公共宗教論をめざして—各地域からの報告—」（パネル「報告 政教関係の国際比較と公共宗教論の視点」）日本宗教学会学術大会、於東京大学、2017年9月17日。
- ・Yoshihide Sakurai, 'Religion and Wellbeing: Viewpoints and Perspectives of Recent Research in Japan, 'Survey Research and the Study of Religion in East Asia, Pew Research Center, Washington DC, October 11-12
- ・Yoshihide Sakurai, 'Medicalization of natural death and restoration of human death in Japan: for sandwich generation in East Asia' 2017 HU-SNU JOINT SYMPOSIUM Sociological Reflections on Current Issues in East Asia, Seoul University, Dec. 9.
- ・「創価学会の政治参加と日本政治の右傾化」第2回東アジア宗教文化フォーラム、於関西大学、2018年2月25日。

[その他]

- ・「現代日本の宗教最前線48 身代わりの宗教性とは」『月刊住職』2017年4月号、134-137頁。
- ・「現代日本の宗教最前線49 中国初新宗教がタイでも信仰される事情」『月刊住職』2017年5月号、138-141頁。
- ・「現代日本の宗教最前線50 臨終行儀はなぜ人の心を惹きつけるのか」『月刊住職』2017年7月号、140-143頁。
- ・「現代日本の宗教最前線51 現代人の死になぜスピリチュアルケアか」『月刊住職』2017年8月号、124-127頁。
- ・「現代日本の宗教最前線52 寺院存亡を左右する臨終行儀」『月刊住職』2017年9月号、152-155頁。
- ・「現代日本の宗教最前線53 逝く人と送る人と僧侶にできること」『月刊住職』2017年10月号、144-147頁。
- ・「現代日本の宗教最前線54 脳死や移植医療に宗教の役割はあるか」『月刊住職』2017年11月号、140-143頁。
- ・「現代日本の宗教最前線55 病院が患者家族に手が回らないとしたら」『月刊住職』2017年12月号、134-137頁。
- ・「現代日本の宗教最前線56 肉親のみとりに理想の形はあるか」『月刊住職』2018年1月号、134-137頁。
- ・「現代日本の宗教最前線57 自ら父の葬儀の喪主となり実感したこと」『月刊住職』2018年2月号、138-141頁。
- ・「現代日本の宗教最前線58 縄文の墓は弔いの場だった」『月刊住職』2018年3月号、142-145頁。

ナカイ・ケイト (NAKAI, Kate W) 客員教授 日本思想史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

土屋博 客員教授 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

山中弘 客員教授 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

林淳 客員教授 日本宗教史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」